

●現代への疑問と不満を抱き、矛盾の解決をめざす人びとへ——ここHOWSで、真実の思考を追究しよう!

2023年度前期 開講講座

5月9日(火) 18時45分~(開場18時30分)

憲法と沖縄とウクライナ

——いまこそ「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないやうにすることを決意し」行動するとき

講師=高良鉄美 (参議院議員・会派「沖縄の風」)

1、黙っていられるか! ——労働者のたたかいが未来をつくる

異常な物価高がわたしたちの生活を直撃している。労働者・人民の怒りを遡らそうと岸田政権と経団連は今春闘で「ベースアップ容認」の大号令をかけたが、実質賃金はマイナスのまま。賃上げの波及しない非正規労働者、女性、高齢者、外国人労働者等の生活困窮はいっそう深刻だ。この社会を根底から変革するには、労働者・労働組合による職場生産点でのたたかいを再建し、拡げていく以外にない。世界と日本の取り組みから学び、協働して前進しよう。

- ① 5月20日(土) **オリジン労働者50数年の闘いの記録** ——その成果と後輩に伝えたいこと 講師=二瓶久勝 (元オリジン労働組合委員長・元国鉄闘争共闘会議議長)
- ② 5月31日(水) **許すな! 壊憲・軍事費倍増・社会的弱者切り捨て** ——労働組合はデタラメ極まる岸田政権とどう闘うべきか 講師=二瓶久勝 (元オリジン労働組合委員長・元国鉄闘争共闘会議議長)
- ③ 7月29日(土) **労組活動家がざっくばらんに語る** ——職場生産点を基礎とした活動をどのように強めるか 講師=吉良 寛 (自治体労働者) 庄子正紀 (全国一般・全労働者組合書記次長) 藤原 晃 (神奈川・学校労働者) **夏季セミナー**
- ④ 7月30日(日) **世界の青年労働者のたたかいの現状を見る** ——世界民主青年連盟セミナーに参加して 講師=近藤和樹 (日本社会主義青年同盟「青年の声」編集部) **夏季セミナー**
- ⑤ 7月30日(日) **職場生産点から声をあげる女性たち** ——つながる・変えるために必要なこと 講師=藤本愛子 (国公労連支部委員長) 米丸かさね (パート清掃労働者) **夏季セミナー**

2、急速に戦争国家への道を歩むニッポン——日本社会でなにが起こっているのか

いま、日本社会は安保関連3文書の閣議決定により「戦争できる国」から「戦争する国」に質的転換していき過渡期にある。戦争準備の態勢づくりに突きすすんでいるのだ。その実態と背景を明らかにし、抗う方向を討議しよう。

- ① 5月24日(水) **活かせ! 日本国憲法 阻もう! 「戦争できる国」から「戦争する国」への質的転換** 講師=萩尾健太 (弁護士)
- ② 7月1日(土) **統一協会問題から日本の教育を考える** ——自分の頭で考える力を奪う教育の実態 講師=高嶋伸欣 (琉球大学名誉教授)
- ③ 7月8日(土) **デジタル化と民主主義** ——監視資本主義にどう立ち向かうか 講師=内田聖子 (NPO法人アジア太平洋資料センター<PARC>共同代表)

3、日朝・日韓連帯運動の課題を探る

日本政府の朝鮮敵視政策により朝・日関係が悪化の一途を辿る中でも、日本各地の日朝日韓運動はたゆまず歩み続けてきた。朝鮮半島の友好の道はいかにして開けるのか。日朝・日韓の労働者がともに声を上げて日本帝国主義の植民地主義に抗おう!

- ① 6月28日(水) **この国には朝鮮学校がある。** ——『高校無償化問題が問いかけるもの——朝鮮学校物語2』の編集にたずさわって 講師=金東鶴 (在日本朝鮮人権協会事務局長)
- ② 7月29日(土) **どうしたら階級的労働運動を築けるのか** ——DVD『ゼネストへ! 1996冬~1997前進する韓国労働者階級』(韓国・労働者ニュース制作団。1997年・34分) 上映と、現在の極反動尹錫悦政権とたたかう労働組合の映像を観て考える 講師=土松克典 (韓国労働運動研究) **夏季セミナー**
- ③ 9月9日(土) **関東大震災時の朝鮮人大虐殺から100年** ——日本帝国主義による朝鮮植民地支配の歴史を検証し、犠牲者のこえをきく 講師=金哲秀 (朝鮮大学校朝鮮問題研究センター付属在日朝鮮人関係資料室室長)

4、沖縄から現在をみる

米軍と自衛隊の基地建設強行にミサイル配備、演習による騒音の激化と基地による甚大な汚染。「復帰50年」を経た沖縄の現在は、労働者・人民の主権を脅かす日米安保の現状でもある。憲法、国際主義の観点から、沖縄と連帯するたたかいの道筋をともに考える。

- ① 5月9日(火) **憲法と沖縄とウクライナ** ——いまこそ「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないやうにすることを決意し」行動するとき 講師=高良鉄美 (参議院議員・会派「沖縄の風」)

- ② 9月23日(土) **沖縄から世界へ平和の風を!** ——反帝反基地運動の最前線から訴える 講師=金治明 (沖縄戦と朝鮮人連行を記録する会・名誉市民在住・辺野古カヌー一隊)

5、第三世界(非同盟運動)の過去、現在、そして未来へ

「グローバルサウス」という言葉がメディアの報道でもしばしば聞かれるように、アメリカ帝国主義による一元的支配に陰りが見えつつある現在、国際関係における非同盟運動に参加する第三世界諸国の存在感は増している。だがその発展への道程は坦々たる一本道ではなく、ときには思いもかけぬ蹉跌にも直面した。本シリーズでは、「非同盟」という形で結集した世界の諸国・諸人民の帝国主義に抗するたたかいの過去・現在・未来をとらえる。

- ① 6月3日(土) **【過去】1955年のバンドン会議から1960年代~80年代の成果と困難** 講師=高演義 (フランス文学者)
- ② 7月22日(土) **【現在】ソ連倒壊をへて「人道的」帝国主義による試練の1990年代~2010年代** 講師=林裕哲 (朝鮮大学校外国語学部准教授)
- ③ 8月26日(土) **【未来】今後の非同盟運動のゆくえ** ——2022・ウクライナ戦争以降 対談=高演義 (フランス文学者) 林裕哲 (朝鮮大学校外国語学部准教授)
- ④ 9月20日(水) **戦争を拒否するたたかいの歴史とアメリカ帝国主義に関する国際人民法廷** 講師=大村歳一 (編集者)

6、日本の短編小説を読む (開始は各回とも午後6時30分)

今期は宮本百合子の創作およびエッセイを特集する。こんにちいかなる陣営、いかなる次元においても顧みられることがないのは「我」の問題である。だが近代とはなにかを問う優れて日本的な文学上の課題とされてきたのがこの問題であった。「我」の問題はこんにちどのようなアクチュアリティを持ちうるか。「大なるもの」というエッセイに百合子はこう書いている。「主我! それは、真にたたくべくもあらぬ尊いものである。此の世に生れ出た以上は、自己を明らかにし、自己を確実に保つ事の目覚しさを希うて居る。何事に於ても、「我」が基になるほど確かな事は無い。」「我」の問題にあらためて向き合うことによって、新しい文学へ向かうわれわれの視点が切りひらかれる。

- 講師=立野正裕 (明治大学元教員)
- ① 5月13日(土) **『日本文学の扉をひらく 第三の扉 戦争とたたかった人たちの物語』を読む** ——著者の立野正裕さんを囲んでの報告と討論 報告=伊藤龍哉 (HOWS受講生) 山本恵美子 (HOWS受講生)
- ② 6月14日(水) **『その年』**
- ③ 7月12日(水) **『大なるもの』『冬を越す蓄』**
- ④ 8月23日(水) **『一太と母』**
- ⑤ 9月13日(水) **『自然描写における社会性について』**

7、労働者のたたかいを描く映画を観て討論する

- ① 8月5日(土) **『地の塩』**(H・ピーパーマン監督・1954年・アメリカ・97分) 労働組合がたたかい抜くということは、時代を切り拓く意識の獲得と実践の道を記していくこと。その変化は労働者の生活の隅々まで、そして婦人問題まで広がっていく。レッドパージを受けた鉱山労働組合が実体験をもとに制作した映画史に残る傑作。
- ② 9月2日(土) **『炭坑』**(G・W・パブスト監督・92分・1931年・ドイツ) 国と国が争っていても、労働者は連帯できる、いや、連帯しなくてはならない。独仏国境のアルザス=ロレーヌ地方の鉱山で実際に起こった落盤事故(1906年)をナチスの政権獲得の直前に映画化した作品。

8、この人にきく

- ① 5月17日(水) **共和制発布100周年を迎えるトルコ** ——東西文明の交わる歴史と文化、そして大地震の状況をきく 講師=イナン・オネル (翻訳家・映像家)
- ② 5月27日(土) **『ワタシタチハニンゲンダ』**(2022年・114分) 上映と討論——高賛侑監督を囲んで
- ③ 6月7日(水) **ゆらぐ水の安全と公共性** ——PFASと水道行政の分割移管・民営化路線 講師=菖蒲谷眞一 (全日本水道労働組合書記次長)
- ④ 6月10日(土) **全人代後の中国の対外政策を考える** ——緊張激化させる「米統合抑止戦略」とは 同盟国に軍拡迫り、「退場」準備の米国 講師=岡田 充 (ジャーナリスト)

- ⑤ 6月21日(水) **福島に移住してから7年** ——反原発運動などに関わるなかで考えたこと 講師=二瓶一夫 (福島県三春町在住)

HOWS講座カレンダー 2023年度前期 (5月~9月)			
① 5月9日(火)	開講講座 憲法と沖縄とウクライナ ——いまこそ「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないやうにすることを決意し」行動するとき	高良 鉄美	
② 5月13日(土)	『日本文学の扉をひらく 第三の扉 戦争とたたかった人たちの物語』を読む ——著者の立野正裕さんを囲んでの報告と討論	伊藤 龍哉 山本恵美子	
③ 5月17日(水)	共和制発布100周年を迎えるトルコ ——東西文明の交わる歴史と文化、そして大地震の状況をきく	イナン・オネル	
④ 5月20日(土)	オリジン労働者50数年の闘いの記録 ——その成果と後輩に伝えたいこと	二瓶 久勝	
⑤ 5月24日(水)	活かせ! 日本国憲法 阻もう! 「戦争できる国」から「戦争する国」への質的転換	萩尾 健太	
⑥ 5月27日(土)	『ワタシタチハニンゲンダ』上映と討論 ——高賛侑監督を囲んで	高 賛 侑	
⑦ 5月31日(水)	許すな! 壊憲・軍事費倍増・社会的弱者切り捨て ——労働組合はデタラメ極まる岸田政権とどう闘うべきか	二瓶 久勝	
⑧ 6月3日(土)	1955年のバンドン会議から1960年代~80年代の成果と困難	高 演 義	
⑨ 6月7日(水)	ゆらぐ水の安全と公共性 ——PFASと水道行政の分割移管・民営化路線	菖蒲谷眞一	
⑩ 6月10日(土)	全人代後の中国の対外政策を考える ——緊張激化させる「米統合抑止戦略」とは 同盟国に軍拡迫り、「退場」準備の米国	岡田 充	
⑪ 6月14日(水)	『その年』	立野 正裕	
⑫ 6月21日(水)	福島に移住してから7年 ——反原発運動などに関わるなかで考えたこと	二瓶 一夫	
⑬ 6月28日(水)	この国には朝鮮学校がある。 ——『高校無償化問題が問いかけるもの——朝鮮学校物語2』の編集にたずさわって	金 東 鶴	
⑭ 7月1日(土)	統一協会問題から日本の教育を考える ——自分の頭で考える力を奪う教育の実態	高嶋 伸欣	
⑮ 7月8日(土)	デジタル化と民主主義 ——監視資本主義にどう立ち向かうか	内田 聖子	
⑯ 7月12日(水)	『大なるもの』『冬を越す蓄』	立野 正裕	
⑰ 7月22日(土)	ソ連倒壊をへて「人道的」帝国主義による試練の1990年代~2010年代	林 裕 哲	
⑱ 7月29日(土)	夏季セミナー 労組活動家がざっくばらんに語る ——職場生産点を基礎とした活動をどのように強めるか	吉良 寛 庄子正紀 藤原 晃	
⑲ 7月29日(土)	夏季セミナー どうしたら階級的労働運動を築けるのか ——DVD『ゼネストへ! 1996冬~1997前進する韓国労働者階級』上映と、現在の極反動尹錫悦政権とたたかう労働組合の映像を観て考える	土松 克典	
⑳ 7月30日(日)	夏季セミナー 世界の青年労働者のたたかいの現状を見る ——世界民主青年連盟セミナーに参加して	近藤 和樹	
㉑ 7月30日(日)	夏季セミナー 職場生産点から声をあげる女性たち ——つながる・変えるために必要なこと	藤本 愛子 米丸かさね	
㉒ 8月5日(土)	『地の塩』(1954年・アメリカ・97分) 上映		
㉓ 8月23日(水)	『一太と母』	立野 正裕	
㉔ 8月26日(土)	今後の非同盟運動のゆくえ ——2022・ウクライナ戦争以降	高 演 義 林 裕 哲	
㉕ 9月2日(土)	『炭坑』(1931年・ドイツ・92分) 上映		
㉖ 9月9日(土)	関東大震災時の朝鮮人大虐殺から100年 ——日本帝国主義による朝鮮植民地支配の歴史を検証し、犠牲者のこえをきく	金 哲 秀	
㉗ 9月13日(水)	『自然描写における社会性について』	立野 正裕	
㉘ 9月20日(水)	戦争を拒否するたたかいの歴史とアメリカ帝国主義に関する国際人民法廷	大村 歳一	
㉙ 9月23日(土)	沖縄から世界へ平和の風を! ——反帝反基地運動の最前線から訴える	金 治 明	

◎HOWS付属ゼミナール・文学ゼミ(戦後文学ゼミを改称)

チューター=山口直孝、松岡慶一

2000年から2016年まで主に戦後の文学・芸術運動を検証する作業を続けてきましたが、これを第1期として、2018年からは第2期、名称もHOWS文学ゼミで再出発しています。第1期の作業を継承するのみならず、いかにして現在の荒廃した支配的文化状況を変革して、文学・芸術運動を再生していくかが課題です。

- ◀2023年度前期募集要項▶
- 定員 本科生20名
 - ・全講座29回 ※集会は本科・聴講券の対象ではありません。
 - ・本科生は、すべての講座を受講できます。
 - ◎聴講生20名
 - ・シリーズを問わず、自由に講座が選べる8枚綴りの聴講チケットがあります。
 - 費用
 - ◎本科生 入学金…1万円(次期以降は不要) 受講料…前期……25,000円、後期: 25,000円
 - ・前期5月、後期11月の開講時までそれぞれ納入してください。
 - ◎聴講生 聴講料回数券…10,000円
 - ・聴講料納入と引き換えに8枚綴りの聴講チケットをお渡しします。
 - ・1回の受講料は本科より割高ですが、一般受講より割安になります。
 - ・聴講チケットは、期間内のみ使用できます。
 - ◎一般 受講料…1,500円(各講座1回につき)
 - ・本科生・聴講生以外の一般参加は、受付で現金にていただきます。
 - 申込方法
 - ・所定の申込用紙に必要事項を記入のうえ、入学金・受講料を添えて、直接事務局に持参、または現金書留にて郵送してください。郵便振替でのご入金には、加入者当方負担の振替用紙をお送りします。
 - 注意事項
 - ・HOWSゼミナールについては、会計が異なります。
 - ・講師の急病等やむを得ない事情により、日程・テーマ・講師等が変更になる場合があります。

HOWS 夏季セミナー 7月29日(土)~30日(日) 事前申込

労働者のたたかいが未来をつくる

- ① 7月29日(土) 労組活動家がざっくばらんに語る
- ② 7月29日(土) どうしたら階級的労働運動を築けるのか
- ③ 7月30日(日) 世界の青年労働者のたたかいの現状を見る
- ④ 7月30日(日) 職場生産点から声をあげる女性たち